

2. (Gno.2) 犯罪学・被害者学の比較研究（中央大学犯罪学研究会）

代表：四方 光

1979 年度（開始）

【研究の目的】

1960 年代にラベリング理論が台頭し、1970 年代にはラディカルクリミノロジーが出現した後を受けて、1980 年代の犯罪学は理論の転換期をむかえている。このような転換の時代にあっては、現代の理論の最新の動向を紹介することに加えて、更にその理論研究の基礎を形成する探求が必要とされている。そこで当研究会は、この犯罪学の基礎研究の出発点として、アメリカ犯罪学上重要と思われる専門用語を選び出し、それらについての解説を試みたい。

【研究活動及び成果】

総括

当年度も夏・冬 2 回の研究会を実施し、院生による発表が行われたほか、国内研究者や実務家による講演会等を実施した。

口頭発表

- ・第 1 回研究会：令和 6 年 7 月 20 日（土）院生発表
- ・第 2 回研究会：令和 6 年 12 月 14 日（土）院生発表
- ・シンポジウム「クレプトマニアの実際と社会復帰支援」：令和 6 年 7 月 12 日（金）
開会挨拶：堤 和通 中央大学教授
基調講演：依存症オンラインルーム K 運営（ASK 認定依存症予防教育アドバイザー・理学療法士）高橋 悠氏
演題：「クレプトマニアの実際と回復の取り組み」
シンポジスト
警察庁生活安全企画課個別防犯対策係警視 岡田幸司氏
法務省矯正局成人矯正課処遇第 2 係補佐官 ニノ宮勇氣氏
（一社）日本フランチャイズチェーン協会 安全対策委員会委員長 石合大悟氏
大石クリニック院長 大石雅之氏
基調講演者 高橋 悠氏
※ コーディネーター 中央大学教授 四方 光
- ・研究会「重大な脅威「セクストーション」対策が急務」：令和 6 年 9 月 13 日（金）
講演者： NPO 法人 ぱっぷす（ポルノ被害と性暴力を考える会）代表 金尻カズナ氏